

じやりみち

…仮設支援情報…



第18号 発行日 1996. 5. 16

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL: 078-578-6921 / FAX: 078-578-6923

E-mail: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

山にいこう そして あなたの造られた風景を見てこよう 花のまわりに 囲いがあるだろうか

崖の上に 柵があるだろうか 小さな心にさえ 囲いを作っている私

星野 富弘

決国会体会のお知らせ

次回は寺子屋の予定でしたが、会則ができたことによる総会の開催の都合で全体会に変更し、共同プロジェクトについてのつめをいたします。いつもの会場がとれませんでしたので、長田区役所の隣の、高齢者ケアセンターながたの会議室で行います。

5月22日(水) 18:30～

全体会の報告

前回の全体会は、共同プロジェクトについてのグループ協議でした。共同プロジェクトについては、ふれあいセンターでのコミュニティづくり、移送サービス、訪問介護・看護という3つのプロジェクトについて話し合ってもらいました。

<ふれあいセンターのコミュニティづくり>

事業概要：仮設住宅で大勢の人が集まることのできるふれあいセンターを有効に使い、住民同士の本当のふれあいの場になるように支援する。

協議から：何に一番資金がいるか？ということから出てきたのが、色々な企画をしたときに出てくる、ボランティアたちの交通費、食費の問題。そしてそれらに使う備品の確保。備品については各団体の備品リストを作成し、調整し合いながら利用する、という意見が出た。

<移送サービス>

事業概要：近くに病院や店がなかったり、交通の便が非常に悪い仮設住宅に住んでおられる方で、交通の手段をお持ちでないなどで必要とされる方へ、移送手段・入浴サービスとして実施する。

協議から：ニーズは多いのに対応ができない。たとえば車。ガソリン代、駐車場、保険の問題等一団体ではまかないきれない。また安全面も他のプロジェクトより重視せねばならない、という意見が出た。対策としてはガソリン代等を連絡会でまとめ、助成してもらう等。保険についてもそういったものがないかを調べるということになった。

<訪問介護・看護>

事業概要：お年寄りや障害者を対象に看護婦・保健婦・民生さんと協力して訪問し、簡単な健康チェックしたり、入浴の介助を行う。

協議から：共同プロジェクトとしてどういったやり方をしていくかということで、市民ボランティアの研修会の必要性が意見として出た。ボランティアの掘りおこしと質の向上を目的とする。また、事例研修等から、行政や民生等とのネットワークづくりをしていってほしいという意見や、それに伴うイベント等の企画への助成をという意見も出された。

以上色々な意見が出されました。これらをもとに次回もう一度話し合うことになりました。

会則が出来上がりました！

詳しくお知りになりたい方は事務局まで。またそれに伴い、代表の選出をし、引き続き村井雅清くんが代表をすることで決議されました。来月6月26日に総会を開催したいと思います。(そのため5/22を全体会とし、6/12を寺子屋とします。)

ボランティアフォーラム 新しい風～ボランティアと呼ばれた人々からのメッセージ～ 報告

5月11日に鷹取中学校で行われたフォーラム。「一緒に語りたい、考えたい、そしてつながりたい」という想いからはじめられたもので、午前中を「語り合いのとき」とし、16の分科会に別れてそれぞれ話し合いました。午後は「学び合いのとき」とし、各分科会の報告を含めた全体討議でした。

全体討議では色々な団体が集まり、今回の震災のことについてや、今後自分たちがどう動いていくかということについての話し合いでしたが、さまざまな視点があり、一面では言えないものがありました。その中で出てきたものの一つとして私たちボランティアの「自立」というものがありました。被災者にとっての「自立」、そして私たちにとっての「自立」とは何だろうか？両方の「自立」がなければ成り立たないのではないだろうかという意見が出されました。

今回できたつながりを次に生かしていくことがこれからの課題です。

……仮設支援情報……

< 仮設は今... >

西宮市編

ふっときになったことのつれづれ日記

自立に向けての支援とは何だろう？とふと思う。
西宮市内の仮設住宅から、SOSの電話を受けて。

プロジェクト結ぶ 石井 布紀子

一昨日、西宮市内にある仮設住宅の住民で、51歳の独り暮らしの男性から、私たちのグループ、街づくり支援「プロジェクト結ぶ」事務局に電話があった。

「三日間何も食べておらず、目が回って動けないから、食事を持ってきてもらえないだろうか」という内容だった。こんなことを言うと失礼なのかも知れないが、「ひやかしか、イタズラでは・・・？」と思えるような話し方にきこえた。そこで細心の注意でインタビューをさせていただく。申し訳ないがどの程度のお身体・生活状態なのか、電話だけではわからなかった。そこで、ご近所のおばあちゃん（結ぶが毎月一度継続させている「ふれあいバサー」で、いつも手伝ってくださる、いわば現地住民ボランティア）にお願いして、お宅まで訪ねていくことにした。

報告の内容は「ギリギリしんどい様子に見受けた。行ってあげられてよかった。お米はお宅にあったのだけれど、目が回ってご自分で炊ける状態ではなかったみたい。あのまま誰も助けなければ死んでしまうこともありえたと思う。」という状態だった。現地ボランティアのおばあちゃんは、ご本人から千円をお預かりして買い物に行き、二日分にはなるであろう食べ物をおいてきたという。「部屋の状態もひどかった。あさってまでにはもう一度行った方がいいと思うけど、私は一人で行くのはちょっとこわい。」とおばあちゃん。二日後の朝、偶然にも、私自身がご本人のお宅へ立ち寄れることになった。

お宅はすぐに見つかった。バサーのチラシまきをするときなどに、何度か訪ねたことのある仮設住宅だったから、さすがにカンが働く。かわいい手作りの表紙でお名前を確認。あれっと思う。何とドアが開いていて、外のじゃりみちの上にある洗濯機が回っている。私は「本当にここかな？」と思いながら、「ごめんください」と声をかける。奥をのぞいてみた。手前の部屋には新聞紙が敷き詰められていて、「掃除を始めたところかな？」という感じ。もう一つ奥の部屋を見て私は唖然となった。明るい音楽をかけて、おじさんがふらつく足で・・・踊っている！

(次号に続く)

がし本は走る

(全国キャラバン日程表)

5/20～26	神奈川県	明治学院大学	がし・パ・礼	(市川・喜多村)
5/24	愛知県	日進市	講演会	(石井)
6/2	千葉県	新松戸	がし・パ・礼	
6/7	東京都	練馬区	講演会	
6/8	栃木県		ソポ・がし・パ・礼	
6/9	栃木県		講演会	
6/15or23	愛知県	名古屋市	学習会	(石井)
6/15	長野県	松本市	がし	(市川)
6/21	東京都	練馬区第二小学校	講演会・がし・パ・礼	(村井)
6/22	三重県	津市	ソポ	(石井)

お願い!!

関東方面の運転手がいません！誰か手伝って下さい。
がしを移動させるための1.5tトラックです。詳しくは村井(030-160-3816)まで。
(移動中のつながりでも結構です。)

事務局からのお知らせ

じゃりみちの縮刷版ができました！

1号から16号までのじゃりみちが1冊の本になりました。1冊300円で売っています。郵送料は書籍小包で1冊240円、2～3冊310円、4～5冊340円、6～7冊380円、8～11冊450円、20～23冊660円となっております。郵便振り込みで振り込み確認後、送らせていただきます。(注:振り込み後に発送ということになりますので、お手元に行くのは少し時間がかかります。ご了承下さい。)詳しくは事務局(078-578-6921)まで。

……仮設支援情報……

前回の全体会の中で、「HABITAT2」の報告がされ、「仮設」支援NGO連絡会の代表として村井くんがイスタンブールに行くことが承認されました。それにあたり村井くんの交通費等の費用を「仮設」NGOが負担することも承認されました。「HABITAT2」と「神戸レポート」についての報告です。

被災地の声を世界へ届けよう！神戸フォーラム

～今世紀最後の国連サミット第2回国連人権居住会議(HABITAT2)に向けて～

HABITAT 2 とは？

6月3日から14日までトルコのイスタンブールで開かれる「第2回国連人間居住会議(HABITAT 2)」は1976年の第1回バンクーバ会議以来20年ぶり、また今世紀最後の、最大規模の国際会議となる見通しです。社会的弱者の要求や負担に注意を払いながら、長期的視野に立って住環境の悪化を阻止し、最終的にはすべての人が耐えうる程度の環境まで改善することを目的としています。

NGOの取り組み

政府間の国際会議にNGOの代表者が同席することは近年の常識となっていますが、北京会議でも見られたように、NGO間の交流や課題の共有の場としても国連のサミットは大きな意味を持つようになりました。また、国別レポートへNGOから課題を盛り込むことで、政府は国際的にその課題に対して取り組む責任を負います。

このサミットに合わせて「日本ハビタットNGO会議(Japanese NGO Forum for HABITAT 2)」が4月11日に東京で発足しました。日本の課題に重点を置き、次の活動を行います。

1. 政府会議へのNGO代表の参加
2. NGOからの国別レポートの作成とそのアピール
3. ワークショップ、パネル展示、ブース参加

阪神・淡路大震災とHABITAT2

阪神・淡路大震災以降、被災地では震災によって弱い立場に追い込まれた人を含めて、10数万人以上の被災者が数週間から現在に至るまで避難所やテント生活を余儀なくされた上、その後も不便な仮設住宅で猛暑や酷暑や湿気、あるいは排気ガス、騒音等に脅かされながら生活しています。今だに遠方の仮設住宅では仕事に支障を来す等の理由で、旧避難所やテントでの生活を続けている人もいます。また、兵庫県外に避難した人の数は国税調査等から約5万人といわれていますが、情報不足で様々な救援活動から忘れられ、見捨てられています。大震災は“新たな弱い立場の人々”を作り出しただけでなく、“豊かな日本”で基本的に解決しないまま隠されてきた問題を一挙に表面化させたのです。この現状を21世紀の都市への警告と教訓にするように訴えるのは、被災地にいる私たちの義務と考え、“神戸レポート”を作成しました。これを持って「HABITAT2 世界NGOフォーラム」に出かけ、ワークショップや展示等の活動を行い、広く世界に発信したいと思います。

これに先立ち、“神戸レポート”の内容を多くの方に知っていただき、また同時に「HABITAT2」に参加する意義をご理解・ご賛同いただきたく、下記の通り「神戸フォーラム」を開催します。様々な“声”を持って

「HABITAT2」に望みたいと思いますので、是非ともこの「フォーラム」ご参加下さいますようお願いいたします。

被災地の声を世界へ届けよう！神戸フォーラム

日時：1996年5月25日(土) 14:00～16:00

場所：神戸YWCAチャペル(神戸市中央区上筒井通1-1-20)

コーディネーター：草地 賢一(阪神大震災地元NGO救援連絡会議 代表)

発信者：“神戸レポート”作成に関わった者、会場の方々

内容：「HABITAT2」参加への経緯と“神戸レポート”、会場の方々の“声”

お知らせその2！！

次回のじやりみちは発送名簿作成及びコンピューター入力のためにお休みさせていただきます。
ごめんなさい。次回は6/6(木)です。